

担当教員授業題目	地質学巡検			担当教員	大藤 茂
英文授業名	Geology excursion			副担当教員	
単位数	2	講義期間		曜日・時限	
授業形態	野外実習	備考			
<p>(1) 授業のねらい</p> <p>富山近辺の (a) 能登半島の新第三系, (b) 飛騨外縁帯～美濃帯の中古生層, (c) 下部白亜系手取層群などを野外で直接観察し, 日本列島形成史を自分で考察することが目的である。</p> <p>(2) 授業の概要</p> <p>メールによるガイダンスおよびガイドブックの作成・提出を経て, 5泊6日の野外実習を行う。</p> <p>(3) 授業計画</p> <p><u>メールによるガイダンス (7月下旬)</u> 担当教員は, 巡検の概要, 計画, ガイドブックの作成担当などを, 詳細にメールで受講者へ伝える。また, 受講者の質問や相談も受けつける。</p> <p><u>ガイドブックの担当部分作成 (8月～9月上旬)</u> 受講者は, 夏休み期間に自習でガイドブックの担当部分を各自作成し, 担当教員へ電子ファイルで提出する。自習とはいっても, メールによる質問は随時受けつける。</p>			<p>(授業計画の続き)</p> <p><u>巡検 (9月8日 (日)～9月13日 (金))</u> 主な観察対象は, (a) 能登半島: 新第三紀における, 日本海の形成や日本列島の大陸からの分離を記録する地層, (b) 飛騨外縁帯: 超大陸 Gondwana 縁辺の火成弧で形成された古生層, (c) 美濃帯: 遠洋性堆積岩類を含む, 後期三畳紀～最前期白亜紀の付加体, (d) 手取層群: 恐竜時代である, 前期白亜紀の陸成層。連続層序から, 環境変化を読み取る。</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>野帳から, 観察力 (観察事実の記載の量と正確さ) と論理的考察力を読み取り, 評価する。</p> <p>(5) 履修上の注意</p> <p>受講者は, 地質学の基本的知識を有することが望ましい。担当教員へ知らせてもよいメールアドレスを必ず有すること。5万円ほどの参加費用 (実費のみ) がかかる。</p> <p>(6) 質問, 相談への対応</p> <p>メール連絡による: shige@sus.u-toyama.ac.jp</p>		
【教科書】		【参考書】日本の地質5 「中部地方Ⅱ」 共立出版 (ISBN 978-4-320-04612-2)			